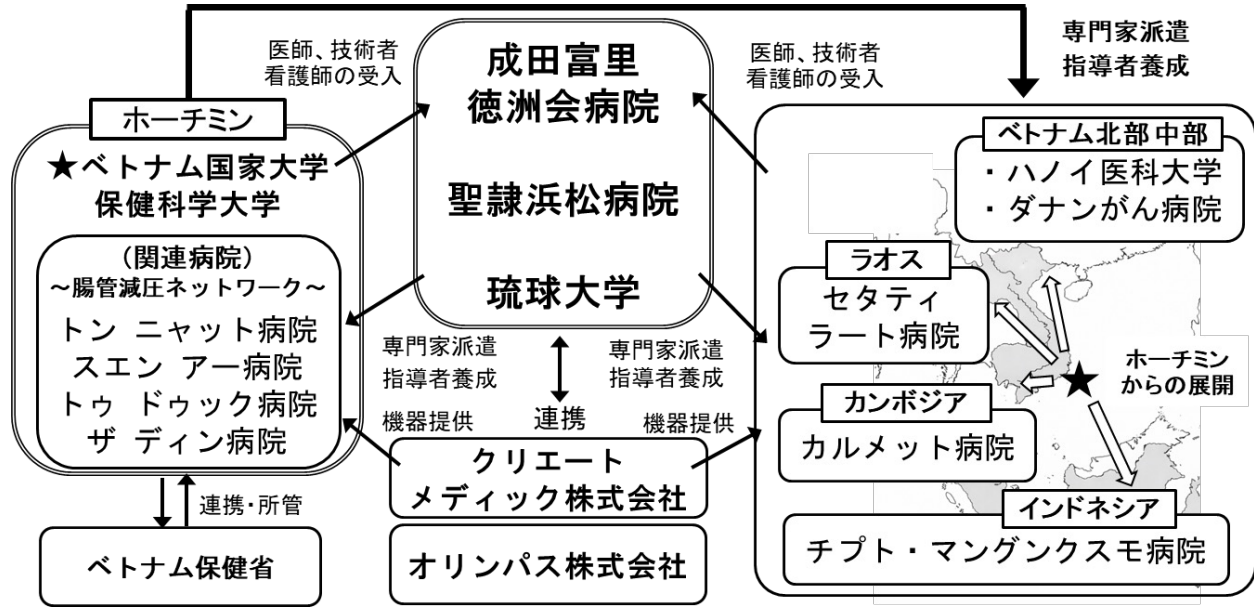


ベトナム・カンボジア・インドネシア・ラオスにおける
インドシナ半島を中心とした緊急手術に代わる腸管減圧用医療機器の普及と人材育成事業 3年計画の1年目

- 1. 緊急手術や人工肛門造設を回避できる日本の腸管減圧技術をインドシナ半島の周辺諸国に定着させ治療成績を改善する。
- 2. 本事業は、これまでベトナム南部に導入した日本の腸管減圧の技術を、現在その技術を使用できないインドシナ半島の周辺諸国に展開する。日本側は成田富里徳洲会病院が中核となり、先行案件と同様に聖隷浜松病院、琉球大学が、腸管閉塞に対する腸管減圧用医療機器の適切な使用から手術までの一連の治療戦略を指導する。対象国での技術普及のため、ホーチミンのベトナム国家大学、ベトナム中部・北部の3次レベル病院、さらに、カンボジア、インドネシア、ラオスの首都の各基幹病院と連携し研修を実施する。先行案件の中でベトナム南部に設立された腸管減圧ネットワークは、養成したベトナム人指導者を新規地域に派遣し、これまで培った経験と技術を、日本人専門家と共に展開し指導する。
- 3. 腸管減圧の新しい技術は、対象国における緊急手術を回避し、根治的手術を実施することで治療成績を改善できる。本案件終了時には、ベトナムをはじめとするインドシナ半島の周辺諸国に標準治療として定着し、保険診療のもと治療が実施できる体制が確立され、対象国における緊急手術および人工肛門造設件数の減少と治療成績の向上が期待される。



<R8年度の研修予定>

- 6月・8月 専門家2名、ベトナム人指導者2名 派遣
・ベトナム中部・北部、カンボジア・ラオス：専門家とベトナム人指導者による腸管減圧の有用性や使用方法の技術指導
- 9月・11月・1月 研修生受入(各2～3名)
・ベトナム、カンボジア、インドネシアからの医師：機器の使用
方法、適応、合併症対策の理解と、腸管減圧の技術研修
・ベトナム人レジデント、看護師、技術者：病棟での腸管減圧
前後の周術期管理と内視鏡や手術手技に関する臨床研修
- 10月 専門家3名、看護師1名、技術者1名 派遣
・ベトナム南部：他者を指導する指導者の養成 インドネシア：
腸管減圧技術の安全性や手術を含めた治療戦略の研修
・グローバルヘルスに貢献する若手人材育成の継続